

令和6年度 第2回 氷上回廊水分れフィールドミュージアム運営委員会 会議記録

日 時：令和7年3月14日（金）16：30～18：30

場 所：水分れフィールドミュージアム2階 多目的室

出席者：三橋委員長、松井副委員長、高木委員、大木委員、梅垣委員、山田委員、松原委員、永井委員
小畠社会教育・文化財課長、足立副課長、海老原教育普及専門員、大嶋館長、中本主事

進 行：松井副委員長

1. 開 会 副課長

2. あいさつ 副委員長

3. 報告事項

（1）令和6年度の事業報告【資料1】

（委員）水分れ公園への来園者は把握されていますか。

（専門員）把握していません。

（委員）感覚的にはどのくらいの人数でしょうか。

（専門員）水遊びが可能な時期になると、公園の利用者が増えますが、水分れフィールドミュージアムに立ち寄られる方の割合は多くありません。冬の時期だと、来園者の半分以上は立ち寄っていただいている印象です。

また、公園への来園者の増減よりも観光ツアー参加者（団体利用）の有無が有料入館者数の増加要因と感じています。

（委員）公園利用者が多い時期にその方たちが立ち寄りやすい工夫をすると良いと思います。

（委員）来館者についての集計で、水分れフィールドミュージアムを知った要因は、どの年代も「近くにきて」が最多ですが、近くというのはどのあたりのことを指していますか。

（専門員）帰省で丹波市へ帰ってきた方や、公園へ来てミュージアムに気づいた方などまちまちなので、どのあたりとは明言できません。

（委員）たくさん人が来るところから水分れフィールドミュージアムへの導入を考えたときに、どのあたりから来やすいのかがわかるとチラシ等広報の効率化が図れると思います。

（副委員長）水分れフィールドミュージアム周辺は桜やヒカゲツツジ、紅葉の観光に来られる方が多く、石生駅から歩いて来られることもあります。

（専門員）ヒカゲツツジを見に来られた登山客の方は、水分れフィールドミュージアムを認知していない印象です。ただ、開花状況を問い合わせる電話は多く、近くにヒカゲツツジの開花状況を知っている館があるというイメージはあるようです。

（委員）書籍と備品の再整理をされていると聞きました。水分れフィールドミュージアムへリニューアルした際に展示スペースがかなり狭くなりました。水分れ資料館時代には、日本各地の分水界の資料を展示されていたので、形を変えて展示しても面白いと思います。また、丹後地方にあった庄屋の文書の写しも水分れ資料館に保管してありました。そういった資料館時代の

資料の所在が気になります。声をかけていただいたら文書類と一緒に見ることも可能です。

(専門員) 資料館時代の写真を見て、文書の写しがあることは確認しています。その他資料についても現在リストアップ作業をしていますので、確認します。

(委員) 関連して、友の会としても会員の知識やノウハウをいかして、作業に加わることも可能ですので、連携していけたらと考えています。

(専門員) 資料館時代の展示物の活用方法など、一緒に考えていただければと思います。

(副委員長) 学校対応がもう少し増えていけば良いと思います。いきものふれあいの里も出前事業などで学校と関わっているようですので、水分れフィールドミュージアムとしてできる関わり方や、いきものふれあいの里と連携してできることもあると思いますので考えていただきたいと思います。

(委員) 学校対応に関して、毎年同様の学校からの依頼が多いですか。

(専門員) 今年度来館した小学校6件のうち、4件は昨年度来館した小学校とは別の学校でした。東小学校など近くの小学校の利用も増加しています。

(委員) 水分れフィールドミュージアムを訪れたこども園、小学生、中学生はそれぞれの年代に応じて感じるがあると思います。将来、子どもたちが丹波市から出たときに市外の人に丹波市について聞かれた際、本州一低い分水界があるところや昔から動植物の行き交いがあった場所であることなどが自然に伝えられるようにするには、幼い頃から現地での教育をしていく必要があると思います。学校から外に出て、フィールドで行う教育をしていただけたら嬉しく思います。こども園や小学校在学中にそれぞれ1回は水分れフィールドミュージアムへ来ていただくなどののはたらきかけは可能ですか。

(専門員) 今年度は、学校のカリキュラムに地域学習が入ってくる年代の小学生が来館されました。現状、毎年来館される(遠足等)学校はありません。

(課長) 丹波市内には、青垣いきものふれあいの里、美術館、歴史民俗資料館などの社会教育施設があります。委員が仰った意見については、教育長も同様のことを考えています。小学校の間にホンモノを見る学習をしてほしいという考えがあり、学校長会等を通じて紹介をしていますが、移動手段の制約上予算や時間的な面で課題があります。

(委員) 崇広小学校などは、人数的な規模が大きくても出前授業を取り入れています。とても良いことだと思います。そういった方法も考えていただきたい。

(専門員) 学校対応では、水分れフィールドミュージアムとは関係のない質問を受けることもあり、目的が地域学習のカリキュラムを達成することに置かれている印象を受けました。水分れフィールドミュージアムへ来館した中学生へは、参考資料の紹介も含めて質問に回答するようにしましたが、より効果的に地域学習を実施するには、まず水分れフィールドミュージアムのことを知って欲しいと思います。この課題を解決するには学校との連携が必要です。水分れフィールドミュージアムの強みや活動内容をアプローチする機会が欲しいと思いました。

(副委員長) 地域学習は小学3年生頃の児童が行います。来年度に運営委員会の資料を作成する際には、学年も記載していただければわかりやすいと思います。

4. 協議事項

(1) 令和7年度の取り組み（予定）【資料2、資料3】

(2) 運営に関する意見交換

(委員) 中高生を集めて、水分れフィールドミュージアムにどのようなことを期待しているかなどを聞く座談会を実施するなど、ニーズの掘り起こしをして、企画していただけたらと思います。実現可能かは別にして、若者の意見を聞くことで、斬新な発想が出る可能性もあり、学生などの参加にもつながっていくのではないかと思います。

(専門員) 方向性がないまま意見を募集してもまとまりのない会になるので、水分れフィールドミュージアムに興味がある生徒が集まるトライやる・ウィークなどと組み合わせて実施すると良いかもしれません。

(委員) 氷上回廊の地域の中で、かつて教師や専門家だった方の個人の家に標本を含んだ資料が眠っている可能性があります。それを訊ねていくことが必要だと思っています。早期に動かないと失くしてしまう可能性もあります。難しいですが、考えていただきたいと思います。

(専門員) まずは、収蔵スペースを確保する必要があります。個人宅を回っていく作業やその指揮は可能かもしれませんが、他施設とも協力しないと難しいと思います。

(副委員長) 収蔵スペース不足は、水分れフィールドミュージアムだけではなくどの施設も感じていることです。教育施設で共用の保管場所を設け、必要なときに資料を出すようにできないでしょうか。

(課長) 副委員長が仰ったように、収蔵庫の問題は様々な施設で感じていることです。美術館や歴史民俗資料館についても、収蔵庫・施設に収まらないものは分散して保管しています。可能な限り資料にとって良い方法を検討させていただきます。

(委員) 市内に珍しい岩石を所有されている方を知っています。個人収蔵されている資料が失われる前に所有者と所有物の把握をするだけでも価値があると思います。保管する場所は必要なので難しいとは思いますが、ご一考いただきたいと思います。

(委員長) (総括コメント) イベント等については、十分な量ができていると思います。水分れフィールドミュージアムは職員が非常に少ない館ですので、友の会とも連携してイベントを盛り上げていければ良いと思います。市民の方にギャラリーを貸し出し、イベントを行なっていただくような計画を立てられれば良いと思います。リニューアルから5年目になりますので、展示物等の不具合が出てくると考えられます。この点に関しては、私も修理をさせていただきます。

集客については、「企画展を魅力的にすること」「学校連携を密にすること」「展示室に標本などをたくさん置くこと」の3つのポイントを押さえて、企画展などを実施していくと良いと思います。

(副委員長) 水分れフィールドミュージアムの駐車場は水分れ公園へ行く方も使用しています。可能であれば、アスファルト舗装を検討していただきたいと思います。観光課とも協議をしながら検討していただきたいと思います。

5. その他

(1) 令和7年度第1回運営委員会

(副課長) 例年、第1回運営委員会は7月頃に開催しています。時期になりましたら委員の皆様と日程を調整させていただきたいと考えています。

6. 閉 会 副委員長